

平成 28 年度 学校評価（保護者アンケート・児童アンケート）の集計結果並びに
自由記述についてまとめとご回答

立川市立幸小学校

校長 野口 知義

学校評価（保護者アンケート）のご協力をありがとうございました。回収率は昨年を上回る 86%になり、貴重なご意見をたくさんいただきました。学校評価は法令に基づき、市内全校で実施されているものです。毎年、保護者の皆様とアンケートを通して意見交換をし、これからの学校運営のあり方を見直す契機とさせていただいております。アンケートの集計結果とともに保護者の皆様のご意見やご質問を受け、回答をいたしました。いただいたご意見は来年度の学校運営の参考とし、子供たちのためにより一層、質の高い教育や教育環境が提供できるように努力をしていきます。

<学校の教育活動全般、次期学習指導要領>

Q：来年度、第八小学校（通級指導学級）から幸小キラリに移行されるが心配

A：集団の中で友達とうまくかかわれない児童が増えています。支援が必要な児童が、コミュニケーションスキルを身に付けるために通級指導学級に通うことは、大変重要だと考えます。これまでの教育効果を振り返ってみても実証されています。平成 29 年度には自校に通級指導学級が開設されますので、保護者や児童に「幸小キラリ」の説明をさせていただくと共に、支援が必要な児童が自分らしく学校生活を送れるよう巡回指導員（第八小学校から派遣）と連携し、指導効果を上げられるよう体制作りをしていきます。

Q：タブレット学習にはメリット、デメリットがある。今後、どのような形で学習に活用していくのか気になる。

A：ICT 教育は立川市教育委員会の重要な施策の一つです。昨年 9 月に全小学校にタブレットが 47 台配置されました。ただ、指導をする際にはたとえ優れた教具であっても使い方が重要です。ご指摘の通り、メリットとデメリットがあります。児童には ICT の活用能力を伸ばしながら並行してメディアリテラシーについても指導をしていきます。

Q：過去に比べ、年々バリアフリーとなりつつある学校が抑制力となり、犯罪防止の観点で子供たちの安全が守れる学校の体制作りをお願いしたい。

A：昨年、防犯カメラ 5 台の設置が完了しました。犯罪防止については、年間の避難訓練計画の中に不審者対応について計画し、不審者が学校に侵入を想定した研修をしています。まだ、十分とは言えませんが、保護者の皆様のご期待に添えるようにしていきます。

Q：思いやりやいじめの指導はとても難しい問題で、道徳で指導したからといって身に付くことではない。様々な観点からの指導が必要ではないか。

A：次期の学習指導要領で道徳が教科化になったのは大津のいじめ事件が発端です。いじめによる自殺や不登校のニュースは頻繁に起こっています。ご意見の通り、いじめの課題は道徳指導だけでは解決できません。いじめている児童や周囲の児童がいじめの行為を真剣に考え、話し合い、議論できるかが重要です。道徳の授業を「考え、議論する道徳」へ転換していきます。担任がまず、児童理解をしっかりと行い、一人一人の適性を見極めた支援や指導ができるよう学年、学校で児童の指導に当たっていきます。また、低学年から家庭や地域と連携して児童の心を豊かにし、耕すことも必要であると思っておりますのでよろしくご願いたします。

<学校行事等>

Q：展覧会の開催日は授業公開をして欲しい。

A：学芸会同様、展覧会の保護者鑑賞日については子供たちの作品を鑑賞していただくための公開と考えております。授業参観を希望される場合は、年間で設定された公開日に限らず授業を参観していただくこともできますので、担任にご相談ください。

Q：柏小のように音楽会を行って欲しい。

A：現在、学芸会と展覧会を隔年で行っていますが、音楽会を入れると 3 年サイクルになります。時数確保の関係で大きな行事は年間一つしかできません。音楽の学習成果は音楽集会連合音楽会（6 年生）で行っています。授業参観日の際には日頃の音楽の学習の様子も見ていただけるよう計画をしていきます。

Q：幸小でも合唱団、吹奏楽の課外活動を行って欲しい。吹奏楽の場合、柏小の児童と比べ、幸小の児童は第四中学校入学時にすでに差があり、子供がかわいそうに思う。

A：合唱団、吹奏楽は、課外活動であるため、指導する教員の専門性や異動を考えると学校のスタッフだけで指導を行うことが難しい現状です。

柏小学校では課外の吹奏楽の音楽指導は教員が関わらず、地域の方に依頼をしています。保護者、地域の方の協力体制や指導者の確保等、条件整備ができた段階で検討をしていきたいと思います。

Q: 学校行事が多すぎる。学校から保護者にボランティア要請も多くあるが、忙しくてなかなか協力できないので心苦しい。

A: 学年の教員が保護者の協力を得る場合、事前に目的や仕事内容、必要な人数等を分かるようお知らせをします。趣旨をご理解の上、可能な時間で構いませんので協力していただくとありがたいです。児童の普段の活動の様子も見ることができます。今年度は保護者方々の協力のおかげで校外学習も無事故で終えることができ、十分な学習成果を上げることができました。ご協力に心から感謝いたします。

Q: 夏季プールの検定日を事前に知らせて欲しい。

A: ご要望を受け、次年度はプールカードに検定日を記入します。また、2学期早々の学年の水泳授業では、夏休みの成果が出せるよう、学年で検定の機会を設けます。

Q: 乱暴なものの言い方や物隠し、仲間はずれなど、学級の子供たち同士のかかわりが気になる。

A: いじめやいたずら等が起きた場合は、学校全体で組織的に対応することに心がけています。昨年度「幸小いじめ防止基本方針（HPに掲載）」をつくり、それに則って対応をしています。お子様の言動で気になる点がありましたら、遠慮なく知らせてください。また、物隠し、いたずら等は直ぐに児童を特定することが難しいケースがありますが、その行為に至った児童が発覚した場合には、心情や理由を詳しく聞き取り再発防止に心がけていきます。また、日頃から学級の問題を学級会、学年集会でみんなの問題にして考える機会を設けています。

Q: 水道水に抵抗のある我が子は学校の水は絶対に飲まないと言っている。水筒持参は自己責任で許可をしても良いのではないかな。

A: 幸小学校では、水筒持参を熱中症予防の観点から期間を決めて許可をしています。昨今、アレルギー対応をはじめ、決まりについても個別に相談し、例外を認めることもあります。まず、学校にご相談ください。ご提案の件ですが、全校に自己責任で許可をすると、低、中学年では、管理の仕方や事故防止の課題が出てきます。今年度は、水筒のいたずらがいくつかありました。水道水は、定期的に水質検査を行っているので安心して飲める状態ですので、水筒持参の件は来年度も今年度と同様の方法にする予定です。

Q: 子供を叱る際にはなぜ、自分が叱られるかを理解させてから指導をして欲しい。

A: 子供に伝わらなければ指導ではありません。怒ることと叱ることの違いを一人一人の教師自身がしっかり区別して指導ができるよう再確認していきます。

Q: 運動会の組み体操はいろいろな問題があると思いますが、来年度以降も継続をして欲しい。

A: 組み体操の教育的意義は大きいと考えています。今年度同様に安全第一で内容を精選し、来年度も実施をしていく予定です。

<生活指導全般>

Q: 幸スタンダードの内容が児童には難しすぎる。

A: 幸小では年度初めに、幸スタンダード（児童、保護者、教師）を出しています。ご指摘の通り多くの項目があり、低学年には内容が難しい項目もあります。ゆえに今年度から児童スタンダードの中身を簡略化し、各教室に掲示して徹底をしています。さらに、スタンダードを意識して児童に浸透できるよう教員間で話し合いをしていきます。

Q: ノーメディア週間の実施の際、並行して読書週間にしても良いのではないかな。

A: ノーメディアの取り組みでできた時間は、各家庭では、親子で時間を共有して欲しいと思います。また、メディアの使用について一緒に考える時間となることを望んでいます。親子読書も素敵な時間になると思います。学校でも親子読書の取り組みを奨励していきます。

Q: ノーメディア週間の用紙の記入が難しすぎる。メディアの使い方についてはもっと学校で指導ができる事があると思うのでお願いしたい。

A: 記入用紙については 検討をします。低学年は保護者の方と子供と一緒に記入をしてもらいたいと思います。

視聴時間を0分にする事が目標ではなく、メディアの使い方について考えるきっかけにてもらいたいと思っています。実施3年目になりましたが、残念なことに高学年の児童の参加が減少しています。SNSについては今後、家庭のルール作りが大変重要になりますので、参加の有無とは別に家族で話し合いをしてください。年々、SNSに関する危険な問題が増加しています。この件は切にお願いします。

Q: 子供が図書室の本を全く借りてこない。ノーメディア週間に読書を促すなど、学校で働きかけて欲しい。

A: 学校では週1回の朝読書と図書の時間、また年2回の読書旬間を設け、読書の啓発を行っています。ノーメディアを週間と読書週間を同時期に開催したらどうかという建設的な意見もいただいておりますので、検討していきます。いずれにしても携帯、スマホをもった子供たちは急激に本を読まなくなる傾向があります。メディアの扱いについては低学年から家庭のルール作りをお願いします。子供の読書は家庭学習やメディアの視聴時間に反比例をします。家庭でも活字に触れる機会を多くもって欲しいと思います。

Q: 学級で起きた問題（水筒、靴隠し）について担任や学校から詳しい説明がなかった。事件を起こした児童は心に問題を抱えている。いじめに関連する問題も含め、学級の問題は直ぐに詳細を知らせて欲しい。

A: ご指摘の通り、学級で起きた問題については、関係した児童の家庭のみでなく、速やかに全体の問題として報告する事が重要と考えます。今年度、一部の学級で問題の報告が速やかに周知されず、対応が後手になり、ご心配をおかけしたことがあり、申し訳ありませんでした。いただいた御意見を来年度反映できるよう改善をしていきます。

Q: 朝の学校の開門を早められないか。

A: 昨年度、開門時間を決めたのは児童の安全管理上の理由です。ご家庭では、8時前後に校門に着くようお願いしています。過去の例から早く開門をすればするほど早く学校に登校する児童が多くなります。教員も出勤していない状況で、安全管理も十分にできません。来年度も開門時間に合わせて学校に登校できるようご協力をお願いします。

Q: 下校時間が日々、まちまちでとてもわかりにくい。

A: 同学年でも学級で下校の時間がかなり違うというご指摘もありました。好ましくない状況です。今後は、児童の安全面からも授業終了後、各学級で速やかに児童が下校できるようにしていきます。教員間で補習や特別に学校に残る場合は、事前に保護者の方へ連絡をとるよう統一していきます。

Q: 学級によって学校にもってきて良い物、いけない物のきまりが違っていることがあった。確認をして欲しい。

A: 持ち物に限らず、服装等についても学校で統一した見解をもたねば、保護者の方も不安になります。生活指導主任と確認し、そのような差が出ないようにしていきます。他学年では状況によっては、成長段階で違うため違いが出てくるものがあるかもしれません。気になることがありましたら、担任に連絡をしてください。

Q: ウサギと当番を休日一人だけでやらせるのはどうか。

A: 休日のウサギ当番については、グループで複数の割り振りをしていますが、当日、都合が悪くなったり、忘れてりする児童がいたため、一人になるケースがあったのだと思います。担任が事前に当番のメンバーを確認すると共に、このような状況がなくなるよう学年で確認をしていきます。

Q: 先生方が研究や学校公開の準備で子供とふれあう時間が減らならないようにして欲しい

A: 次期学習指導要領実施に向けてどの学校も来年、再来年は教員が真剣に研修、研究を進めていくこととなります。一方で教員の多忙感が増しているのも現状です。今年度の教育課程を振り返り、次年度は会議や行事を精選したり、やり方を見直したりしながら、子供とふれあう時間を減らさないよう努めていきます。

Q: 休日に高額なお金を持ち歩き、大量にお菓子やジュースを買い、皆に配っている子がいた。買い食いやおごったり、おごられたりする行為についての指導をお願いしたい

A: 上記のような子供の様子を見ましたら直ぐに学校に報告をしてください。学校から大型ショッピング店が近くにあるので、高学年になると子供同士で出かけることも考えられます。お金に関することは生活指導部から機会を見計らって指導を行っていますが、長期休業中や休日については児童の様子を教員が把握しにくいので、ご家庭でも子供の行き先や帰宅時間、誰と遊んでいるかなど児童の状況を理解し、お金の使い方についても話をしてください。

Q: いじめの相談にのってもらったが、いじめた相手に全く気持ちが伝わっていなかった。これからはもっと早く対応をして欲しい。

A: 6月、11月、2月には、いじめの未然防止と早期対応をねらいに児童アンケートを行っています。いじめた側、いじめられた側双方にしっかりと、いじめる行為がどれだけ相手を傷つける卑劣な行為かを認識させていくと共に、子供の心のケアを考え、幸小いじめ防止基本方針（HP参照）に則って指導、対応をしていきます。

Q: いじめ、暴力など負の感情による問題行動が起きたときに子供たちがどのような学びをしているのか気になる。そもそも子供たちは、いじめがなぜ起きるか分かっているのか疑問である。

A: いじめの未然防止として、幸小学校では校内研修を年3回、いじめに関する授業を年2回、全5年生対象にSC（スクールカウンセラー）と面接、6月、11月のふれあい月間では児童アンケートや児童面接を実施しています。いじめ防止策としては日頃から担任だけでなく、様々な教員が積極的に児童とかかわりをもちながら児童が出すサインを見逃さないよう心がけています。児童にはいじめは人間として許されないという強い認識をもたせられるよう低学年から発達段階を考慮して指導をし、学校全体で取り組んでいきます。まだまだ課題がありますが、「いじめは全ての子供に関する問題であり、どの学校でも起こる」という認識のもとで取り組んでいきます。

Q：校門の外にいる動物をつついたりしていじめている子がいると聞いた。動物を大切にできる幸小の子供たちであって欲しい。

A：命の教育は、道徳教育を中心に全教育活動を通して指導をしています。しかし、まだ、上記のような行動が起きているのは悲しいことです。道徳の時間に限らず、命の教育は人権教育推進計画の中で重要な指導として位置づけをしています。継続して全教員で指導を行っていきます。

Q：ソーシャルスキルのような内容の授業が道徳の時間にあるとよい。

A：ソーシャルスキルは学級活動や道徳でも活用できる場面があると思います。ソーシャルスキルトレーニングを使った授業実践もありますので、教員間で実践を共有し、学級に広められるようにしていきます。

Q：縦割り掃除でケガをしたと聞いた。安全に配慮して指導してほしい。

A：安全指導や安全教育が十分でなかったと思います。作業前に活動の危険性について十分に説明するとともに保健指導を通して身の安全を守る学習を行います。

Q：以前は登校時に先生方が校門に立ち、子供たちに挨拶をしていたが、今はそのような光景はなく、残念。

A：朝から元気に挨拶してくれる児童は相変わらず多く、とても感心しています。ただ、学校全体を見ると挨拶をする児童とそうでない児童の差が大きくなっている印象です。来年度は、低学年から挨拶することが当たり前になるよう生活指導部の教員や児童会を中心に挨拶を広める指導をしていきます。教員も児童に負けないよう挨拶ができるよう心がけていきます。関連して保護者の方から、学校で挨拶する児童でも学校を一步出ると挨拶が少なくなるという話も聞きました。ご家庭と地域と学校とが三者一体となって挨拶が自然に特別な事ではなくできるようになると素晴らしいと思います。挨拶の指導が引き続き行っていきます。

<学習指導、教職員>

Q：月・木曜塾はなぜ、算数のみなのか。国語も大切だと思う。また、月・木曜塾の指導時間が短いので、内容がしっかり身に付いていないのではないかと。

A：週一度の(補充学習)は時間も限られているため、現在、児童の習熟に差が出る算数のみで行っています。月・木曜塾、当日の朝学習(パワーアップ)で十分に理解できなかった児童を中心に、算数ベイシックドリルを使って問題の復習を行っています。国語ベイシックドリルは、別途、授業のまとめや自主学習、家庭課題で使用をしていきたいと思っています。時間は短いのですが、ベイシックドリルの基礎的な問題について、その日のうちにできるようにする事はとても価値のある学習と思っています。来年度、月・木曜塾を進める中で御意見がありましたら、再度いただきたいと思っています。

Q：漢字検定を幸小学校でやってほしい。

A：例年何件か同じ御意見をいただく内容です。現在、若葉小、けやき台小など、市内小学校の一部で検定を実施しています。検定は学校の教室を提供する形で公益財団「日本漢字能力検定協会」の検定試験問題を行っています。(実施は平日の放課後または土曜日)費用については予め学校の担当者が受験する家庭から受験料を集金します。試験監督、受験者の試験時間や集金などの運営は学校で行っています。当日の検定が終了後、検定協会に採点を行ってもらう形式です。費用は一回2000円前後がかかります。検定に向けての練習は各家庭にお願いしています。立川第四中学校では全校生徒に呼びかけ、希望者に実施しているそうです。現在、学校では新学習指導要領実施に向けての準備に取り組みははじめます。現状では実施に向けて様々な課題があり、申し訳ありませんが、漢字検定を実施することは困難です。漢字学習に意欲のある児童については、個人で申し込みをしていただき、お子様の個性を伸ばして欲しいと思います。

Q：宿題を増やして欲しい。日々の宿題の量に差がある。宿題がないと勉強しない。

A：家庭学習の習慣作りは学力向上の重要な要素であり、中学校に向けての準備になります。宿題の量はどの学年も毎日少しずつ継続した家庭学習ができるようにしています。家庭で宿題をする際には、メディアの使用を一旦やめて、集中して学習ができる経験を積むことでスムーズに家庭学習の習慣が身に付くと思います。

Q：図工や生活科で使う材料は突然言われても用意が難しい。用意する時間に余裕をもらいたい。

A：手に入れにくい材料等は調達に時間がかかると思いますので、ご要望通りにできるよう考えます。時間があっても手に入れるのが難しい材料の場合は、事前に担任や図工専科にご相談ください。

Q：基礎となる学習が不十分で心配なことがある。授業で理解していないようであれば家庭に連絡をして欲しい。

A：特に3年生は学習内容が急に難しく、複雑になります。授業時数が増える上に新たに理科、社会の学習が加わります。来年度からは新学習指導要領の移行措置で外国語活動も加わります。学習を十分に理解するには家庭学習(復習)がさらに重要になります。学習の遅れにつ

いては、心配な場合には担任から早めに連絡をするようにします。家庭では、毎日学年×10分を目安に学習ができるように声かけをお願いします。

Q：専科授業の際に子供の学習態度が悪いと聞く。担任の先生も専科の授業に入った方がよい

A：ご指摘の通り、学級担任の指導と比較すると専科の時間に態度が悪くなる事例があります。学級の課題が専科授業に持ち越されるケースもあり、そのような状況にならないよう担任と専科がさらに連携をして指導をしていく必要があると考えます。現在も専科授業の内容や学級の状況に応じて担任が補助に入って学習する事は行っていますが、いずれにしても好ましい学習環境を作れるよう努力していきます。

Q：図工や理科の時間の道具を扱う際にはケガをしたり、させたりしないよう声かけをお願いします。

A：図工や理科の授業では、使い方を間違えると危険な道具があります。安全指導を十分に行っていきます。また、理科の実験等の指導には教員研修会を開催するなど、教員間で意識と技術に差が出ないようにします。

Q：音楽の参観時に児童が着席したまま歌を歌ったり、CDに合わせて歌っていたりした。歌は立って歌った方が良いし、伴奏は生伴奏の方が良いと思う。

A：貴重な意見をいただきました。専科教諭と一緒に御意見について考えていきます。また、保護者の皆様には授業参観の折に、参観授業の内容や指導者のねらいなどをプリントにして渡せるようにしていきます。参観して気が付いた事は遠慮なく、学校公開のアンケート用紙に御意見をご記入ください。

Q：先生の言葉遣いや頭ごなしに叱る姿に子供が少なからず心を痛めている様子である。先生方は子供の立場になって指導の振り返りをして欲しい。

A：「教師は最大の教育環境である」という言葉もあります。教師の言動は子供たちの模範とならねばいけません。いくらよかれとされていて子供の心に届かない指導は誤りです。全職員が子供の心に寄り添った指導ができるよう努力をしていきます。

<その他>

Q：学校の状況が分からず、学校アンケートに答えづらい項目も多かった。

A：学校評価（保護者アンケート）は、毎年、学校、教育活動、教員、家庭、その他（小中連携）に項目を分けて質問をしています。来年もほぼ、同様の内容になりますので、新学期から1年を通して振り返りをしていただき、再度、具体的な御意見をいただけるとありがたいです。

Q：アンケートは無記名の方が、本音がかけて良いと思う。

A：回収したアンケートは、担任と管理職が集計をして、考察を加え、来年度の教育課程編成の参考にさせていただいております。自由意見についてはできるだけ多くの御意見を uptake、お答えしていきたいと考えます。紙面では回答が難しい内容については個別に回答をさせていただくこともあります。ゆえに、御意見をお返すの意味でも引き続き、記名をお願いします。H26年度からアンケート提出専用の封筒使い、記述していただいた情報についての扱いに配慮しています。引き続きご理解をお願いします。

Q：学校HPのブログ更新が以前よりされていない。学校の様子を知る上でも更新をお願いしたい。

A：大変申し訳ありません。更新の仕方を検討し、来年度は定期的に更新できるよう改善していきます。子供たちの活動の様子を多くの方に見ていただきたいと思っております。

Q：連絡帳に先生にチェックがないのでその内容が正しいのか心配している。

A：特に低学年の児童の保護者の皆様には、連絡帳のチェックがないと内容が漏れていないか心配になると思います。漏れないよう注意して確認をしていきます。学年進行と共に点検をしなくてもしっかりかけるよう段階を踏んだ指導もしていきます。

Q：子供は学校に行くのがあまり好きではありません。授業についていけないこともある。学校の楽しさを見付けられない。もう少し先生が子供の話を聞いて欲しい。

A：学校は「楽校」でなければいけないと思っております。まずは教員に児童に「分かった、もっとやりたい」という気持ちをもたせるような授業を行えるよう努力をさせます。学校行事では、児童がみんなで取り組んだ時のやりがいや達成感、当番や係活動ではみんなのために仕事をする喜びを味わえるようにしていきます。誰もが「明日も学校に行きたい」と思える学校を学校、家庭、地域とともに築いていきたいと思っております。担任は子供と話をする時間をつくり、いろいろな教員とかかわりをもたせながら、子供の良さを認め、励ましていきます。

Q：中学年になると難しい年ごろになる。先生はいつも子供たちから好きで尊敬される対象であってほしいが、先生が子供と適度な距離感をとることに配慮して指導に当たって欲しい。

A：昨今のこの件に関連するニュースから保護者の方が気にされているのだと思います。子供は時には先生に親近感をもち、先生との距離が近くなりすぎることは想定されます。まずは学級担任や専科教諭がそのことを十分に予想して気を付けていきます。

Q：行事写真では、特定した子供ばかりが写っている気がする。

写真販売はインターネットで良いが、送料からして注文した写真は子供に持ち帰らせれば良いと思う。

A：保護者の御意見として業者に伝えます。持ち帰りの件は写真業者の方と実現可能か話をしていきます。

Q：小中学校の連携はどんどん進めて欲しい。

A：現状、立川第四中学校区の連携は進んでいます。外国語活動、立川市民科をはじめ、小中連携協議会ではお互いの授業を参観したり、児童・生徒の情報交換もしたりしています。次年度も今年度の活動を見直しながら、連携すすめていきます。内容については来年度もHPや学校便りでお知らせをしていきます。

Q：2学級間で学習、意識、連帯感に差があるのは残念。幸小の全体の教育に差があると感じる。教育の質の向上に取り組んで欲しい。

A：小学校は中学校と比べ、担任による指導時数がきわめて多く、御意見のように感じる保護者の方も少なくないと思います。好ましい状況ではありません。方策として、指導内容によって学年で授業を交換して行ったり、支援員と協働で指導を行ったりするなど学習教材や指導方法を工夫していきます。若手教諭に関しては、学習、生活指導について研修をしながら育成をします。さらに、これからは学年や学級だけでは行えない教育活動が増えていきますので、チーム学校として、保護者の方に不安を与えないよう複数で指導に当たる体制を作っていきます。保護者支援は教員の大きな励みになりますので引き続きお願いします。来年度、学校生活が始まりお気付きの点がありましたら、保護者アンケートを待たず、随時、相談をしてください。

Q：入学後の持ち物の準備、名前付け、水着の用意など、全体的に準備期間が短く、フルタイムで働いていると用意が大変であった。配慮をお願いしたい。

A：御意見の通り、できるだけ学習に使用します教材については事前に連絡ができるようにしていきます。また、時間があっても手に入りにくい教材については学校の方で予備を用意するようにします。

☆自由記述のご意見の中には、学校の取り組みへの評価や考え方を支持する記述もありましたので、一部紹介をさせていただきます。

- 地域連携、縦割り活動（異学年活動）が充実しており、素晴らしい。
- 子供たちの個性を尊重し、自由にのびのびと過ごさせているところが素晴らしい。
- どの先生もいつも穏やかな顔をしていて笑顔で温かい雰囲気が表れている。
- 夏祭りや秋祭りは他ではないと聞く。お祭りや地域行事がたくさんあることは今の時代になかなかない。
- 学級に差があるようですが、学級便りが充実している。子供たちの様子がよく分かり、安心して過ごすことができる。
- 2年生の職場体験は大変よい学習。来年度も引き続き続けてほしい。
- 子供の自主性を大切に認めてもらい、親も子供を信じて寄り添う気持ちになっている。感謝
- 保健便りが毎回イラスト付きでわかりやすく、親子で楽しく読ませてもらっている。
- 子供が安心して学校生活を過ごしている。星空観望会のような体験学習も楽しみ。
- 相談事に迅速に対応してもらいありがたい。児童や学年の情報を先生がしっかり共有できていて安心。
- 展覧会の子供ガイドが素敵だった。ガイドによって他の学年の作品に興味をもてた。
- さまざまな学校行事によって子供たちが成長していく姿に感動する。
- 朝会の話が心に残るようで子供が家で話をしてくれる。
- 運動会、学芸会等学校行事での子供たちの活躍が素晴らしかった。
- ノーメディア週間の取り組みはとても有意義であった。
- 月・木曜塾で指導をしてもらい、勉強する時間が増えた。
- 体験活動が充実している。家庭ではできない様々な体験をし、子供たちの成長を実感する。

★可能な限り、ご質問やご要望については校長の責任で回答をさせていただきました。いただいたご質問やご要望の全てに回答はできませんでした。不十分な点がありましたら校長、副校長へ問い合わせをしてください。個別に保護者の方に対応をさせていただきます。保護者アンケートと児童アンケートの結果もご覧ください。報告が大変遅くなり、申し訳ありませんでした。来年度もよろしくお願いいたします。